

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	實吉 玄貴
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	准教授
在籍年	10 年

教育の責任

「地質学」と「古生物学」を主に研究しており、学科における地学及び古生物学分野の授業を担当している。「古生物学概論」「古環境学」「堆積学」「古生物学実習」などの授業を行い、学科における恐竜・古生物学コースの教育を担当している。

教育の理念

私の教育の理念は、自らの存在は、他者（もしくは自然）の存在に立脚する、との考えを出発点とする。自然や他者へ対する畏怖や謙虚さを身につけることで、自らの価値を再発見し、また自分の存在も肯定する礎となる。このため、自然科学へ対する基礎的な科学的知識に基づき、論理的な思考や見方を身につけ、さらに他者へ伝えることのできる人材力を育みたい。

理念に基づき、特に学際領域へ注力した授業を行うことで、学問の相互性を理解し、自らの学ぶ学問体系を理解できる人材育成を心掛ける。学問は、人生をも豊かにできる力でもあり、短期的な成果に加え、長期的な人生ビジョンの構築や、幸福追求へも寄与する力を育みたい。

教育の方法・方針

教育理念を具体化するため、「古生物学概論」では、複数教員が講義を担当し、広い知見より古生物学や地質学分野の基礎的知識を身につけた上で、過去を理解することが、現在の自分へとつながることを認識する。また、人類進化などを例にすることで、人間の持つ他者性を理解するための科学的知見や思考法を身につけ、自己と他者の関係を理解する。上記方針に沿うため、下記の方法を実施している。

（シラバス・授業資料などを参照）

- ・PPT を中心とした講義を行う一方で、必要な資料に関する情報を随時提供する。
- ・授業プリントなどを通じて、自らの考えと科学的な基礎知識との差分を理解する。
- ・レポートの書き方に関する学習を通して、自説を言語化する手法を理解する。
- ・評価を複数レポートを提出することで、自らの考えを適切に表現する力を身につける。
- ・英語文章を理解し読解する能力を身につける。

さらに次の教育理念を具体化するため、「古環境学」「堆積学」「古生物学実習」では、自然科学の基礎的知識を身につけつつ、相互に関係する学問体系を理解する力を育むことを方針とする。さらに、実習では自らが自然物と相対することによって、それらを理解するための複数領域に渡る基礎的知識を活用する手法を身につける。上記方針に沿うため、下記の方法を実施している。

（シラバス・授業資料などを参照）

- ・古生物学や地質学の基礎的知識から応用的な利用までを含めた学際領域的な学問体系を概観し、それらを統合する学問体系を考える。

- ・古生物学や地質学の先入観と、実際の科学的基礎知識との差分を理解し、再構築する力を養う。
- ・授業中に配布するプリント類や演習問題などを通じて、自らで複数領域を用いた考え方を統合する力を身につける。
- ・現在進行形で実施する研究活動も講義に組み込むことで、常に変化する自然科学的知見を知ること、新たな探究心を持つ力を身につける。
- ・実習では、実際に経験する自然科学的事象に対して、適切に表現する力を身につけるため、多学問領域から事象を捉える。
- ・複数レポートの作成や提出を通じて、協働力・思考力・表現力を身につける。

教育の成果

授業アンケートの結果から、複数の学問体系を用いた自然科学的思考に対する学生の関心が高まったと判断できる。また、授業では学習内容に関する感想などを複数回表明する機会を作っており、各授業への学生の反応を把握するようにしている（授業アンケート、授業や評価でのレポートを参照）

今後の目標

「他者」の存在を理解するために、グループワークを積極的に取り入れる。特に複数による議論は、他者の考えの理解を通じて、自らの思考と到達点を再発見することにもつながるため、講義時間内での時間作りに注力したい。

また、恐竜学科立ち上げとともに、新学科における教育体制の構築が急務である。複数人教員による講義や、前述したグループワークの効果的な導入など、新学科で実行可能な手法を考え、実際の講義へ反映させる努力を続けたい。

加えて、恐竜を学ぶことは地学の延長ではなく、過去に生きた生物として捉える視線を養うために、新学科における生物学的な視点による講義を通じて、恐竜学の新たな大学教育の確立を反映させたい。恐竜＝発掘調査、ではない新しい恐竜学の確立を目指す。

根拠資料

- ・レポート課題・教材（配布資料）
- ・授業アンケート結果